

令和4年4月15日
中部地方整備局



「道の駅」防災機能強化の取り組み ～小型発動発電機の寄贈～

- 国土交通省では、「道の駅」第3ステージの取り組みの一つとして、災害時に地域防災拠点となる「道の駅」の防災機能を強化するため、耐震化や無停電設備などの施設整備を推進しています。
- このたび、(一社)日本道路建設業協会中部支部と中部ブロック「道の駅」連絡会とが連携し、令和2・3年度に続き、地域防災計画に位置づけられる10箇所の「道の駅」に小型発動発電機が寄贈されることとなりました。
- 今年度寄贈される「道の駅」の箇所一覧、(一社)日本道路建設業協会中部支部が実施する寄贈式の日程は別紙をご覧ください。
- 小型発動発電機は、4月下旬より順次「道の駅」へ寄贈される予定で、令和2年度からの3年間で累計24箇所の「道の駅」へ寄贈されることとなります。また、今年度の寄贈によって中部地整管内の地域防災計画に位置付けられた「道の駅」は、全て発電機を保有することとなります。
1. 配付資料：別紙 ((一社)日本道路建設業協会中部支部公表資料)
 2. 配布先：中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、高山記者クラブ、恵那記者クラブ

<問い合わせ先>

中部地方整備局 道路部計画調整課

課長 いのうえ ひでとし 井上 英俊

課長補佐 まつお けんじ 松尾 賢二

直通電話:052-953-8171

道の駅への発電機の贈呈について

- すべての道の駅に、災害時用小型発電機を装備
～地域防災計画に位置付けられる道の駅の100%保有を目指して～

一般社団法人日本道路建設業協会（東京都中央区、会長：西田義則）は一般社団法人全国道の駅連絡会（東京都江東区、会長：石井 裕）と連携し、国土交通省が推進する道の駅の防災機能強化として、全国の地方自治体において地域防災計画に位置付けられる道の駅の発電機保有率100%を目指し、令和2年度から3年間で約200の道の駅に小型発電機を寄贈します。全国の地方自治体の地域防災計画に位置付けられる道の駅の発電機保有は、地方部においては約半数にとどまっています。一方で、台風等による停電に備える対策も急務となっております。

全国道の駅連絡会と協力し、国土交通省が推進する道の駅「第3ステージ」における道の駅の防災機能強化の一助とするものです。

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、四半世紀が経過し、国土交通省では、2020年からは第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点」として位置づけており、新たに加わった道の駅とともに取組みを進めてまいります。

日本道路建設業協会中部支部ではこれまでに社会貢献活動として、平成20年度からAEDを15台、平成27年度からは小型発電機を32台寄贈して参りました。

今年度は10箇所の道の駅に寄贈を行います。

これにより、中部地区の地域防災計画に位置付けられる道の駅全てに発電機が設置されることとなります。

小型発電機は、停電時における道の駅の補完電源として、生活に必須となった携帯電話の充電、夜間照明など幅広く利用でき、地域住民への「安心」を提供するとともに道路利用者の安全・安心確保に寄与するものです。

■今年度寄贈する道の駅（10箇所）、寄贈式日時・場所（予定）

道の駅桜の郷荘川（高山市）、4/19(火)10:30～・道の駅

道の駅飛騨白山（白川村）、4/19(火)13:00～・道の駅

道の駅白川郷（白川村）、4/19(火)14:10～・道の駅

道の駅白山文化の里長滝（郡上市）、4/22(金)10:40～・道の駅

道の駅飛騨街道なぎさ（高山市）、4/22(金)13:30～・道の駅

道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里（恵那市）、5/11(水)10:00～・恵那市役所

道の駅そばの郷らっせいみさと（恵那市）、同上

道の駅おばあちゃん市・山岡（恵那市）、同上

道の駅美濃白川（白川町）、5/11(水)13:10～・道の駅

道の駅半布里の郷とみか（富加町）、5/11(水)15:00～・道の駅